



第69号 2006年 5月

発行:萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL0838・25・3178 FAX0838・26・5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

萩藩校明倫館の跡地に建つ明倫小学校では、毎日、全児童が朝の会で、萩出身の幕末の志士、吉田松陰が残した言葉を朗唱している。言葉は学年ごと、学期ごとに変わり、6年間で18種類。明倫小のホームページにも、言葉が紹介されている。言葉はかなり難解で、正しく理解できる人は大人でも多くはないが、小学生の柔らかない頭脳にしみ込んだ言葉は、一生消えることはなく、その後の人生の節目でハッと思い出すに違いない。

万巻の書を読むにあらざるよりは、いづくぞ千秋の人たるをえん（多くの本を読み勉強しなければ、どうして名を残すような立派な人間になることができようか）。

写真の2年生1学期のことば。

明倫小学校

松陰先生のことば 朗唱



吉田松陰ブロンズ像	P2
明治維新の聖地・旧松本村	P3
ふるさと文学散歩② 防長三人旅の記	P4
ズームアップ「波田直登」	P5
インタビュー「清水明人」	P6
萩の元気企業③ (有)たけなか	P7
阿武町 漁家民宿	P8
同窓会・会員だより	P9

目次

萩国際大学、萩商工高校	P10
ふれあいショップとれたて村	P11
夢追人「田中民雄」	P12
萩博物館・浦上記念館だより	P13
情報アラカルト	P14, 15
春のイベント	P15
日本各地の萩② 井上馨潜伏の家	P16
旬の味覚便り「やはで」	P16

小泉首相に野村萩市長が贈る

前号で小泉純一郎首相の施政方針演説について取り上げましたが、早速、3月1日に野村萩市長が首相官邸を表敬訪問し、首相に幕末の思想家、吉田松陰のブロンズ像を贈りました。このことは、新聞各紙の政治面で取り上げられるなど全国ニュースとなりました。



▲松陰のブロンズ像を前に話す小泉首相、安倍官房長官と野村市長



△首相に贈った松陰のブロンズ像

首相は松陰ファンで知られ、今年1月の施政方針演説でも松陰が使った孔子の言葉「志士は溝壑に在るを忘れず」を引用しました。これを受けて、松陰の生誕地の萩市からブロンズ像の贈呈を申し出たものです。この像は高さ約60cmで、約30年前から市役所に飾られていました。

首相は95年に総裁選に挑んで敗れた際も「かくすれば かくなるものと知りながら 己むに己まれぬ大和魂」という松陰の言葉を引用しました。贈呈後、首相は「松陰や高杉晋作は現代の我々が学ぶべき教訓、生き方を示している。維新にかける志を学んでほしい」と集まった記者団に語りました。また、野村市長が、明倫小学校では毎朝始業時に「松陰の言葉」を朗唱していることを伝えると、首相は「それこそ、地域の特徴ある教育だね」と述べました。

天地には大徳あり 君父には至恩あり...

明倫小の朗唱 昭和56年から

明倫小学校では 1981年（昭和56年）から「松陰先生のことば」を教育に取り入れ、20年以上になります。

普段は、各教室で行いますが、学期末には体育館で学年ごとに朗唱します。

卒業式では、6年生が3学期に朗唱してきた「恩に報いるまでは少しの時間も無駄にせず、一生懸命励まなければならぬ」という趣旨の言葉を、卒業生と在校生によるお別れの言葉の中で披露しました。



△松陰の言葉を朗唱する卒業生

松陰関連の本好評発売中！ 萩ものがたりシリーズ

■⑤「松陰先生のことば」

「今に伝わる志」

萩市立明倫小学校監修



学年、学期ごとに明倫小学校で朗唱する松陰の言葉を、萩市特別学芸員の一坂太郎が一文ずつ現代訳と解説を加えて編集。松陰が志を託した数々の言

葉には、日本再生のヒントが隠されている。

■⑨「吉田松陰と現代」

加藤周一著（評論家）

いま吉田松陰に学ぶべきものは何か。松陰の現代における意義、あるいは松陰の生涯の作品を「現代」に翻訳すればどのような意味を持つのか、縦横に語る。2004年10月、萩市民大学教養講座での講演・質疑応答を整理し加筆。

◆申し込み
萩ものがたり事務局
（08338・255・3233）

【定価 600円】

明治維新の聖地

旧松本村

明治維新の原動力となった吉田松陰。松陰が生まれ育ち、門弟を育て、幕末から明治初期に活躍した多くの逸材を輩出した場所、それが旧松本村(萩市椿東)です。

松陰神社

1890年(明治23年)、松陰の没後31年たって建てられた松陰神社。敷地内には松下村塾や吉田松陰幽因ノ旧宅、花月楼などがあり、多くの観光客が訪れます。



△厚東常吉翁之像

この神社の復興・整備維持に尽くしたのが、大正・昭和期の実業家・政治家で、萩松陰神社維持会会長だった厚東常吉。熊毛郡八代村(現周南市)に生まれ、幼時に萩船津の叔父厚

東武勝の養子となり、萩で育ちました。県会議長、衆議院議員、萩商工会議所会頭などを務め、地方経済・政治に活躍しました。神社の駐車場横には、昭和42年に彼の功績をたたえた銅像が建てられています。

週刊朝日で松陰特集



3月10日号から4月14日号までカラーグラビアで「松陰のこころ」シリーズとして6回にわたり特集。

司馬遼太郎の「世に棲む日日」を中心に、松陰が残した思想や生き方、その軌跡を辿っています。



松陰墓所

松陰の墓は、花崗岩の自然石で作られ、表に「松陰二十一回猛士墓」、裏に「姓吉田氏、称寅次郎、安政六年己未十月二十七日於江戸歿、享年三十歳」と刻まれています。松陰刑死後、遺髪を埋めて百ヶ日忌に建てられました。



松陰誕生地



この地は、松陰が1830年(天保元年)に萩藩士杉百合之助の次男として生まれ、幼時期の人間としての形成期を過ごした場所。当時の家の間取りを示す旧宅の敷石や松陰産湯の井戸が残っています。近くの高台には松陰銅像が建てられており、市指定史跡にもなっています。

この度、市がこの地を「萩まちじゅう博物館」の拠点の一つと位置づけ、敷地内を全面改修し、観光客や市民が憩える場として整備しました。

この墓所には、杉百合之助、吉田大助、玉木文之進、久坂玄瑞など一族の墓のほか、門人の高杉晋作などの墓が立ち並んでおり、市指定史跡にもなっています。

松陰の墓を守る会

この墓を管理されているのが「松陰の墓を守る会」(会長 井上弘行)。戦後、墓を世話する人もなく荒れ果てていたため、松陰先生を顕彰して墓を守り、この地に松陰の墓があることを知ってもらおうと、昭和38年に当時の山下誠一萩市長らが中心になって会が発足。以後現在まで40年以上の間、会員の地道な活動によって墓が守られてきました。現在会員は約80人で、井上会長は6代目。



松陰の墓を守る会の井上弘行会長

井上会長は「この墓は、墓前に高杉晋作や伊藤博文など明治維新の立役者となった門人がその名を刻んだ石灯籠や花筒、水盤が寄進されていて、幕末の歴史を知る上で大変貴重。松陰先生の偉大さをもっと知ってもらい、多くの人にお参りしてほしい」と話されました。

※野村市長が小泉首相に贈った松陰のブロンズ像、松陰誕生地にある松陰と金子重之助の銅像、松陰神社にある厚東常吉の像は、いずれも萩市出身の彫刻家、長嶺武二郎(故人)の作。昭和30年に日展に特選したほか、日展審査員も務めました。



防長三人旅の記

— 河上徹太郎・三好達治・井伏鱒二

萩 市は多くの歴史遺産に包まれた町で知名度は格段に高い。春から初夏にかけてのシーズンは「まさに風光明媚」、萩の町が最も輝きを見せる時期だ。

昭和27年（1952）の春、河上徹太郎、三好達治、それに井伏鱒二の三人が萩を訪れた。

文芸評論家の河上徹太郎は当時50歳。

叙情的な詩作で知られる詩人、三好達治はこの時52歳。

市井の人々の人情の機微を描く小説家井伏鱒二は54歳。

油 ののつた熟年の三人旅は、三人がジャンルは違うけれど同じ「もの書き」ということで旅先での言動に先ず興味を惹かれる。そして旅行の後に書いた三人の随筆を読み重ねるとそれぞれを持ち味が交錯して面白い。

河上は車で萩のまちに入る様子を次のように書いている。

「ふと眼が覚めるとかなりな峠

萩の町は市役所の前に蓮田があつたりしていつもながら静かだった。日は傾いていたが、西国の春の夕べは東京の夏時間のように日脚が長いのである。」と

河上の情景描写は、評論家のそれとは思えないほど流麗で心地よい。

萩出身の帰省者の、多くは山陽側から峠を越えて山陰側に抜けるのだが、山あいの道がようやく終わり萩市街が見渡せる地点にさしかかると、誰もがホッと心落ち着き帰心矢の如く感じるといふ。

古い写真でみると昭和20年代の萩は、市役所が現在地の筋向かいにあり、あたり一帯は蓮田が広がるのどかな風景だ。井伏と三好は初めて訪れた萩の町の「電車も空襲の痕もない静かで落ち着いた雰囲気」が大変気に入った様子だ。

三人は車で堀内、指月城址、松陰神社、東光寺、萩焼の窯、越ヶ浜などを廻っている。

河上は言う「私は東光寺が好きだ。建物が黄檗宗の寺にふさ

ているのが却って板についている。」戦後間もないこの時期の萩のまちは、全般に「古き良き時代の風景」をそのままに留めていたのだろうか。

当時を知る東光寺住職のご母堂鬼武篤子さんは「河上先生が東光寺が好きだと言つて下さったのは嬉しいですね。境内の佇まいはほとんど変わりませんが、遠望したときの風情は周囲の開発が進み壊れてしまいました。」と懐かしむ。

河上は59年「日本のアウトサイダー」を著し論壇に確固たる位置を占めた。彼は進歩的な鋭い評論で活躍したが、毛利支藩の岩国藩士を父にもつ彼の中では常に吉田松陰を「肉迫すべき素材」として捉え続けたのである。68年思いを込めて「吉田松陰」を上梓した。ある種彼の使命感だったのかもしれない。

翌 朝三人は城跡や屋敷町を感想を三好はこう述べている。

「お城に近い屋敷町は区画が井

一角を形づくっていた。」このあとの昼食時、話は町の保存に及んだ。

相手を充分理解し合った同年輩の気ままな闊達な語り合いが目につく。

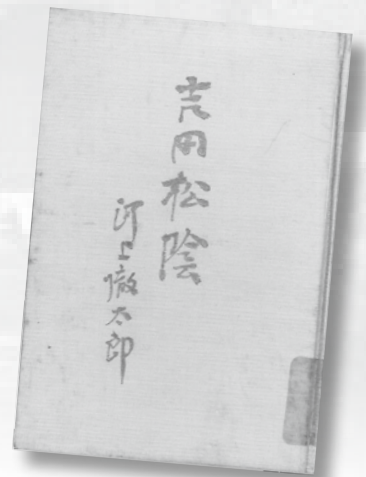
三好の文章から引くと「この屋敷町一帯の維持保存は現在年々萩市の大きな負担になっているとか。このままではいづれは荒廃を防ぎ切れまいと頭痛の種だ」という話だった。

萩市は近代産業をもたない辺境の小都市であるから、無理もあるまい。屋敷町というのがあるから、いつそ重点的にその部分を限って選択的に保存をすることにしようかと言うのが、私の例の間に合わせの代用説であったが、井伏はそれには頭から反対で、あんなに立派な散歩区域は日本中に二つとあるものではないから、断じて三好のようなみみっちい考えを起さず、どこまでも全区域を全力あげてあのまま完全に保存すべきだ、という説であった。」戦

「集金旅行」「本日休診」など人情の機微をユーモアとペーソスを交えて描く一方原爆の惨禍を見つめた「黒い雨」など重い作品も手がける奥の深い作家だ。

時 代は下つて50年、平成18年のいま、萩市はまちを挙げて都市遺産の再発見とその保存によるまちづくりに取り組んでいる。その先頭に大蔵官僚を辞して市長となった野村興兒がいる。萩市出身の彼は故郷のために尽くしたいとキャリアの中央官僚職をなげうつての帰郷だけに意欲満々だ。「まちじゅう博物館構想」を提示し、屋根のない博物館づくりを市民との協働で実現しようと呼びかけている。まさに井伏鱒二が言う

「日本に二つとない立派な散歩地域」を保存修復して、そこに広がる小さな物語を含めて次世代に伝えたいという試みだ。壮大なロマンの実現に向けてエネルギーギッシュに取り組んでいる野村の活動を井伏ら三人の文士が見ることが出来たら、果たして



河上徹太郎著

「吉田松陰一武と儒による人間像」(昭和43年 文藝春秋刊)

◇プロフィール

1947年(昭和22)5月2日生まれ、41年萩工業高校電気科卒、45年中央電気通信学園(電電公社幹部養成校)大学部技術科卒、以来コンピュータシステムの開発に従事、(株)NTTデータを経て平成13年(株)ソルコム。埼玉県富士見市在住。



からたち会関東支部総会 (筆者:前列中央)

※05年秋、06年春に東京・大阪・福岡で開催した「萩まちづくり推進懇話会」(萩出身者と萩市長の意見交換)に出席された方を順次紹介します。

からたち会関東支部長
(株)ソルコム 一丁事業本部 担当部長

波田 直登 氏

埼玉県在住、萩市上小川出身、昭和41年萩工業高校卒、58歳

の上からつづら折りの途を降りつつあった。やがて平地に達した頃阿武川に接し、間もなく海の方に指月の城址の密林が見えだした。それとともに全市街が夏橙の黄色い実でちりばめられた萩の町へいつしか入っていた。

わしく適宜に支那風なものもなつかしく、山門も本堂も荒れているが、今の鄙び方がそれなりに美しい。参道の石畳の両側には菜種や麦が植えられ、遠くから見るとその黄色い菜の花や青い麦の穂の中に伽藍が囲まれ聳え

然としているのと、古風な築地がたいていは破損をしているがとにかくどうやらなお旧態を保っているのと、築地のみならず十に一つは正門その他の母屋などまでが残っているのと、なかなかゆかしい閑雅な珍しい

からたち会

関東支部について

昭和40年に萩商工高等学校が商業高校と工業高校に分離された後の第一期卒業生である。

昭和49年に萩商工高校の工業科の先輩方と一緒に、からたち会関東支部を発足させ、毎年東京で同窓会を開いてきた。多い時には90名近くの同窓生が集まり、盛況の時期もあったが、最近若人達が東京へ来なくなり、40〜50名の集まりになっている。

6年前から4年毎に萩高校、萩商業高校、萩光塩高校の各同窓会と萩四高校合同同窓会も開催した。

一年中、同窓会の準備や後始末で、萩出身の人達と集まって萩の話に花を咲かせる。

萩の思い出

上小川の家からは通学が困難なため、高校の時は萩市内に下宿していて、萩の街に親しんだ。高校に入学した時は、江向の現

後間もなく生きることそのものが問われていたこの時期、井伏が明確に将来に及ぶ歴史のまじの保存を強く主張していたことはとても興味深く敬服に値する。

井伏鱒二は、直木賞を受けた「ジョン万次郎漂流記」のほか、
高井 誠(エッセイスト、日本ペンクラブ会員)

萩商業高校の化学実験室を教室として使い、しばらく経って平安古へ移転したが、まだ校舎は建築途中で、スレート葺きの実験室で机を並べていた。運動場は無く、校地裏の水路でいもりを草で釣って遊んでいたことが懐かしい。

広域合併によって小川地区も萩市になったが、こちらは自然豊かというが大変山深いところである。しかしながら、子供の頃には八幡宮の秋祭りや農耕馬の競馬大会や青年団による奉納芝居、石見神楽舞といったものにもぎやかに行われていた。少子高齢化の最先端を行く土地となつて、年々寂しくなっていくが、この豊かな自然を大事に保存して行きたいものだ。

萩への一言

昨年、萩まちづくり推進懇話会(東京会場)で提案したことのひとつであるが、萩の豊かな自然の良さを認識し、生活の中や観光資源として取り込んでいってはどうか。

例えば、萩市の野生動物や小鳥、昆虫、魚類、植物といったものがどの様に分布しているか調査し、絶滅の危機にさらされているものや希少種の保護に市民を挙げて取り組むといったことができないものか。

また、このような豊かな自然や良い景観を町おこしに利用することや、花を植えたり川魚の遡上を増やして人々が楽しめる場所にしていくこともできる。

私の近況

電電公社に入社して以来、無線技術者を目指していたが、時代の流れに沿ってコンピュータシステムの開発に従事して35年になる。札幌オリンピックの競技データ集計システムから始まり、銀行間のCD・ATMネットワークや中央官庁の全国ネットワークシステム等、種々の社会システムの開発に携わってきた。

現在は、企業の人事給与システムや財務会計システム開発のマネジメントをしている。



△営業初日の賑わい

萩市の市民グループ「萩を創るUIターンの会」が、この4月より萩観光の活性化に寄与すべく、城下町にて屋台の営業を始めた。開業の4月8日、「晋作くん」と「毛利さま」と命名された2台の屋台が、萩博物館付近の空地にデビュー、大勢のお客様で賑わった。その仕掛け人であり、同会の代表をつとめる清水明人さんにお話をお聞きした。



◀屋台をスタートした清水さん

インタビュー

第二の人生を「あきんど」として

あきひと
清水明人さん
(萩市堀内在住、59歳)

▽屋台で観光客におもてなし
この3月末で長年勤務した市役所を定年で卒業しました。退職後もお世話になったこの地域に恩返ししたいという思いが強くなり、UIターンの会という思いが強く、UIターンの会が都市部から戻ってきたメンバーと一緒に、以前から温めていた地産地消屋台のプランを実現することになりました。頭の中にある屋台のイメージを大工さんに伝え、特注した屋台は2台分です。

▽UIターンの会は、地域の資源
この屋台ビジネスが「萩を創るUIターンの会」の初の事業となりましたが、地域活性化に関わるいろんなアイデアやプラン

300万円、伝統菓子「じょうぎ饅頭」の型枠は浅草の専門業者に発注、自らの退職金でその費用を賄いました。屋台で販売するのは、萩名物じょうぎ饅頭を看板に、萩の海山の幸・ヤキトリ・おでん・夏みかんジュースなど。営業のかたわら、萩市内の観光名所やイベントのパンフレットを配布したり、お客様に萩の楽しみ方をお教えしたり、単に食べ物をお客さんに提供するだけでなく、観光客とのコミュニケーションを通じて、心のこもった「おもてなし」を実践したいと考えています。

▽まちの駅構想も着々と
同時並行して、「まちの駅」作りにも仕掛け人として奔走しています。「まちの駅」は数年前より商店街活性化を中心とした地域振興の一手法として注目を集め、全国的なブームを起しつつあります。田町商店街の商店主や市内の事業者と勉強会や協議を重ね、開設に向けて着々と進行中です。具体的には「お菓子の駅」「酒蔵の駅」「夏

をこれからは積極的に実行に移していこうと考えています。60歳といってもまだまだ元気、しかも、それまで都市部で過ごしてきたUIターンの会の方々の経験や能力は地域にとっての大きな人的資源だと認識しています。単なるボランティアでの社会参加というのではなく、その能力・経験を生かして、地域に貢献しつつ、利益も上げてその活動を継続していくことが重要なポイントです。一定の対価を得ることで、その活動に対する責任感もおのずから出てきますし、また儲けることが遣り甲斐にもつながっていく。私自身も「清水あきんど」と名乗り、リタイヤ世代の地域貢献と商売を両立させるといったテーマの実践のため、一生懸命に旗振り役を務めていきたいと思っています。

みかんの駅」「豆腐の駅」「萩焼の駅」「地ビールの駅」などといったように、その店主の稼業をテーマにした駅作りを行い、そのテーマに関する詳しい話を聞くことができたり、製造所の見学や商品の試飲試食ができたりと、萩を訪れる観光客の興味関心にあわせてテーマ別の拠点を整備するというもの。

この「まちの駅」計画も、設置した店主にとっては集客促進となり商売に繋がりが、かつ観光客にとっても自分の興味関心にあわせて萩を楽しむことができ、そして総体としては商店街の活性化に寄与していく。私自身がかかっている「地域貢献と商売の両立」にきっちりリンクしている訳です。今年度中に25駅の開設を目指して、こちらのプランも着々と進行中です。

■プロフィール
1945年(昭和20年)萩生まれ。萩高校を経て青山学院大学卒。萩市に奉職、経済部長時代には「道の駅/萩しーまー」という事業を手がけた。菊ヶ浜を日本一美しくする会や、萩城郭保存会などの市民活動にも事務局長として参加。今年3月、定年退職。現在、萩を創るUIターンの会代表、まちの駅ネットワー

萩の元気企業探訪

(有)たけなか



△本社工場

夏みかんの保護に情熱を傾ける一人として、自ら1haの夏みかん畑を作り、市内の農家約60軒の夏みかん畑を委託管理、そして各種夏みかんの加工品を全国に出荷する(有)たけなかの代表、竹中一男氏(56歳)さんにお話をお聞きした。



▷各種夏みかん製品(一部)



△夏みかんに対する想いを熱く語る竹中氏

夏みかんは、かつての萩の主力産業

祖父の代から夏みかんの栽培を手がけ、父親の代で夏みかんの産地間屋を営んでいました。かつて、夏みかんは商品作物として非常に価値が高く、戦前では約40kg入りのカマスが10袋あれば、1人の子供の一年分の学資が賄えたといわれています。萩における夏みかんの産業規模も今では信じられないくらい大きく、夏みかんの売上高が、当時の萩の財政規模とほぼ同等だったということでした。

全国のお得意先と長いお付き合い

自身は萩商を卒業後、大阪の繊維問屋に就職。昭和50年に萩に戻り家業に従事。その頃の記憶ですが、大学ノートに全国各地、約300件のお得意様の住所録があり、毎年産地直送で夏みかんをお送りしていました。今ではそのお客様リストも約3000件となり、何ものにも替え難いわが社の重要な宝となっています。また、約30年前から関西の老舗和菓子店に毎年30トン程度の夏みかんを供給しています。伝統の和菓子の味を守るため、どうしても萩の夏みかんが必要、何とか良質の夏みかんを継続供給できるようにして欲しいと懇願され、それ以後長いお付き合いをいただいています。

スローフードブーム

現在、青果としての夏みかん出荷量は全体の10%程度、主力は夏みかんの生ゼリー・菓子・ジュース・ジャム類などの加工品。全国の主要百貨店との継続的な取引をベースに、贈答用として根強い支持を頂いている商品群です。さらに近年のスローフードブームによって、その土地ならではのローカルブランドにバイヤー(仕入れ担当者)の注目が集まってきているようです。ギフト系の販社をはじめいろんな所から商品に関する問い合わせや新規取引の照会が来ています。今後については、業務用商品も含め加工品のアイテムを増やしていきたいと思えます。自社工場での製造に留まらず、他メーカーと組んで新しい

夏みかんは、萩のディスプレイ

ただ、大きな利益を上げて会社を大きくしたい、といった野心は正直あまりありません。明治の頃からこの萩の地で夏みかんに関わって来られた数多くの先達のお陰で、いま飯を食わせてもらっている。萩の財産ともいべき夏みかんの生産を維持し、そして次代に受け継いでいくことが、自分の使命のひとつだと感じています。「夏みかんは、萩のディスプレイ」というフレーズを私自身はよく口にしますが、観光振興を考えた時、夏みかんという萩の固有資源はとても大きな可能性を持っていると確信しています。仕事で全

★プレゼント

3名様に抽選で夏みかん製品の詰め合わせをプレゼントします。ご希望の方は、住所・氏名・電話番号・近況など明記の上、官製ハガキで萩ネットワープレゼント係までご応募ください。5月末日消印有効。

全国各地を訪問しますが、その先々で自社製品のPRとともに、夏みかんの町としての萩をどんどん売り込んでいきたいと思えます。(談)

■会社プロフィール
 【本社工場】萩市椿東梶ヶ原223413(中ノ倉)
 松陰神社境内に直売店がある。
 ☎0838・26・0066
<http://www.haginet.ne.jp/users/natunikan/>

萩の地域振興にさまざまな提案

萩市は、都市圏の各産業分野で活躍されている萩市とその周辺出身の企業家や経営者の方々と、萩のまちづくりや地域振興について意見交換を行う「萩まちづくり推進懇話会」の第2回会合を、2月16日に東京、2月21日に福岡、3月28日に大阪で開催し、次のような提案がありました。

中心市街地の活性化

市では、今回出された提案について、今後実施の可能性を検討し、報告書としてまとめるほか、実現できるものは順次実行していく予定です。

- ・観光の拠点として、駐車場や休憩所、物産土産物屋を整備。
- ・萩焼工房やガラス工房、竹細工工房など作らせる、見せる、食べさせる商店街にする。

企業誘致・企業・創業

また、今回参加された方とのネットワークを維持し、萩市の情報を各地で発信してもらうほか、今後も引き続き、市への情報提供や助言などの協力をいただくことにしています。

- ・誘致企業への経済特区的な支援体制を整備する。
- ・萩で出店したい、萩に住んで農業をしたい人へ、不動産情報を一元化した窓口を設置する。

▽参加者からの主な提案

萩市議会議員選挙 30人の市議決まる

4/23

合併による在任特例の適用で議員数が94人となっていた市議会の任期満了に伴い、合併後初となる市議会議員選挙が4月23日に実施されました。投票率は76.91%でした。

今回の選挙は、定数30人に対して、現職37人、新人8人の計45人が立候補。立候補者が定数を大幅に上回ったため、激しい選挙戦が繰り広げられました。

選挙結果は、現職25人、新人5人が当選。旧市町村別では、萩市22人、川上村・田万川町・福栄村各2人、須佐町・旭村各1人となっています。



▲福岡会場での懇話会の模様

定住対策

- ・Uターン促進のために同級生の働きかけや支援措置を行う。
- また新規就農・就漁者へ優遇措置や空き家情報の提供を行う。
- ・Uターン者へ新築・中古住宅購入の支援や借入金利子一部助成、技術者養成支援、正月・盆に地場産業就職相談会を行う。

産業振興と後継者育成

- ・各地区の特産品の品種改良や新品種開発を行う。
- ・萩ブランドの地場産業の育成。

観光振興

- ・滞在型、体験型観光を開発し、リピーターを増やすことに集中する。(松下村塾で当時の講義を再現した寸劇など)
- ・市街地に萩焼窯元を集めて工房長屋をつくる。
- ・菊ヶ浜など水辺の魅力を引き出す再開発を行う。

阿武町

山口県初の漁家民宿 「浜の小屋」オープン

「まあ、親戚の漁師のおじさん家に遊びに行くって感じで来てみてください」と話すのは、県内初の漁家民宿「浜の小屋」を自宅にオープンした地元漁師の茂刈達美さん56歳。

漁師でありながら、町の活性化や環境問題にも積極的に取り組み、地元自治体をはじめ多方面に友人・知人も多い。そんな茂刈さんが民宿を始めたきっかけは、「ただで泊まれて、おもしろい人がいる家」という口コミで、昔から学生やフリーの旅人とかがよく訪ねて来ていたんですが、知らない人との交流の楽しさや、今もつながるその人たちとの縁というか、出会いの不思議さを知ってしまった。これが原点ですね。」

内初の農家民宿「樵家」(宿賀・白松博之さん)も昨年度オープンしています。田舎の常識は都会の非常識。都会の皆さんからいえば異次元空間ともいえる阿武町の漁村、農村の風景、また町で出会える人々とのふれあいを体験してみませんか?

■問い合わせ

漁家民宿「浜の小屋」

083888・4・0535

農家民宿「樵家」

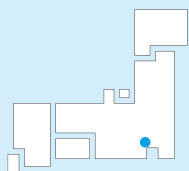
083888・5・0138



浜の小屋の特徴を尋ねると、「旅の目的には、温泉やおいしい料理など色々あるけど、これを僕の所に求めたら期待はずれ。自分の居場所や時間など、自分探しの旅をしてみたい、またあるがままの田舎を楽しみたいという人にはうってつけですね」と話しています。

なお、阿武町内にはこれも県

同窓会だより



★事務局からのお知らせ
クラス会、同窓会、皆さんからの投稿記事をお待ちしています。萩ネットワーク事務局まで、お送りください。



坪井良子（東京都豊島区）

関東三八会 品川プリンスホテル(東京都港区)

2月12日

萩商工の商業科を、昭和38年に卒業した関東地方に在住する同級生が、毎年集まっています。1993年から集まり始めて、今年で13回目になりました。学校では、ちょっとワルだったかも知れない(？)友やいたずらっ子だった友も、年を重ねてみんなどとも素敵になっています。会う度に感じるのは、人としての質の良さです。

還暦を過ぎて1年、まだ現役で頑張っている人も、ボランティアに情熱を燃やしている人もいます。会うと楽しい、会うと元気になるいい仲間です。人生の大きな節目で肩の荷が少し下りて、これから老いを迎える中で、お互いに励まし合い、支えあつてゆけるといいなと思います。

「関東三八会」という名称の、ちよつとこわいおにいさんでもいそうな感じのところがみんなで気に入っている、にぎやかで心のあつたかい同級生の同窓会です。

会員からのお便り めーるぼっくす

○田坂陽治（香川県高松市）

いつも「萩ネットワーク」楽しく拝見しています。

早速ですが、第67号(2006年1月号)の表紙を飾りました「冬の長門峡」に関するビデオテープをお送りします。

私(萩高五期生)の所属していた「同志社グリークラブ」の後輩たちが1988年の高松公演で中原中也作詩の「冬の日の記憶」を歌っているもので、「冬の長門峡」があります。中原中也の詩に男性合唱作曲で著名な多田武彦が作曲したものです。

萩高時代は須佐町からSL通学でしたので「長門峡」を訪れる機会はあまりありませんでしたが、毎年帰省していますので(江向に実兄が在住)、一度ゆつくり訪ねたいと思っています。

松陰神社境内の資料館に展示してあった中原中也のろう人形が、今は撤去されているそうで残念に思っています。

(事務局から)私も小さい頃、中原中也のろう人形を見た記憶がありました。「8年前に撤去。問い合わせがときどきあります」と松陰神社)

○横山豊（福岡県新宮町）

第68号(06年3月号)の

2009年に松陰神社宝物館のニュースをみるに、次の人物を思い出しました。

戦後の一時期、松陰神社は荒れ、参拝者もほとんどありませんでした。元国会議員の厚東常吉氏(通称厚東坊主)と地元の人々が、修復保全に努められていたことを、当時小学生ながら覚えていきます。

現在の松陰神社の繁栄は、この様な人たちの積み重ねです。で、いつか紹介してください。(厚東常吉氏の銅像が松陰神社内に建っています。3頁で紹介しました)

○津田英夫（兵庫県三田市）

故郷、萩の情報をいつも楽しみにしています。

年、2〜3回帰省しますが、その時に兄弟で一番萩情報に詳しいと萩に住む兄弟に言われます。兄も萩の博物館でボランティアをやっており、意味がわからなかった、萩のまちじゅう博物館の意味を兄弟で一杯飲みながら教えてもらいました。

(津田さんのお兄さんは、萩のまちづくりを考える「21はぎ市民会議」の環境部会でご活躍中です。お世話になっています)

○池内和夫（神奈川県横浜市）

JAL(日本航空)月刊誌「Agora」3月号のアゴラ日本紀行で、「志士の名残」古地図を見ながら歩ける城下町という題で、坪田三千代さんが萩を紹介しています。

(15頁で紹介しました)



○名倉恭子（静岡県島田市）

あと数年で静岡空港が完成します。祖父のいる萩も近くなると思います。

○右田忠司（千葉県市原市）

月水金に3時間半の透析を受けており、遠出は不自由になりましたが、望郷の念は強く、病に負けず大過なく生活しています。

○田村清介（神奈川県相模原市）

当地へ来て4年経過。相模原の水にもどうにか慣れ、地元史を学んで当地にも意外と貴重な歴史があり驚いている昨今です。萩もいろいろ取り組んでいるよ

うで心強い。(名倉さん、右田さん、田村さん、3月号の井上商店詰め合わせセット当選、おめでとうございます)

「日本福祉文化大学」に改称



△記者会見する村本理事長(左)と長町副学長

4月10日、萩国際大学の経営再建に取り組んでいる学校法人萩学園が、07年度から大学名を「日本福祉文化大学」に改称す

「萩商工高校」が新たにスタート

4月10日、萩商業と萩工業の統合で新たに設置された「萩商工高等学校」の開校式と入学式が萩工高体育館で行われ、新入生となる一期生210人が新たな歴史の一步を踏み出しました。

式には、新入生のほか、両校の在校生410人も出席。浅原司校長が「両校の伝統を受け継ぎ、新しい歩みを重ねてまた伝統を築き上げてほしい」とあい

ると発表しました。学部は「ライフデザイン学部(仮称)」の1学部のみで福祉系単科大学となる予定です。

21世紀の自立型福祉社会に求められる資質と資格を有し、即戦力として活動できる人材の育成を目指し、学科は、「ライフデザイン学科(仮称)」の単科で、次の4コースで構成。

- ・子ども生活学コース
 - ・福祉心理学コース
 - ・健康スポーツコース
 - ・福祉環境デザインコース
- 定員は約200人。08年度に

は福祉関連の専門学校の併設も計画しています。

学内には、経営再建を支援する塩見ホールディングス(広島市)が15億円で学生寮2棟(1棟150人)を建設し、大学に無償貸与するほか、既存施設も2億円を投じて実習用などに改造されます。

副学長に就任し、新学部設置準備室長を務める長町三生氏(元広島国際大学教授)は、「単科大学で実践から心理面まで社会福祉のすべてが学べるのは全国でも例がない」と述べました。

さつされました。

08年度までに萩工高の敷地に新校舎を整備する予定で、それまでは両校の校舎を活用するという事です。両校は現在の2年生が卒業する08年3月まで存続します。

開校に先立ち、3月下旬には校歌も決定。作詞 岡輝明(阿東町)、作曲 津室ひとみ(萩市)の歌が12点の応募の中から選ばれました。



▷開校式で新しい校旗が浅原校長に手渡される

企業の皆様「萩においでませ」

市役所に企業誘致の専属チーム

萩市では、萩への企業進出や起業、創業する方を支援するため、4月から市役所総合政策部に専属の萩・企業誘致推進チームを立ち上げました。

この専属チーム設置の背景には、萩市の大幅な人口減少があります。昨年10月に実施された国勢調査で、萩市の人口が前回調査に比べて3756人、6%も減少。ピークだった昭和30年以降、減少の一途をたどっています。

萩市では、これまで人材供給の地として、高校卒業後進学や就職で若い人材が都会に流出してきました。萩の主要産業である観光業や農林水産業も大きな雇用は見込めず、定年を控えた団塊世代の方が萩に帰郷しようと考えても、雇用の場がないのが現状です。

このため、新たに雇用の場を確保し、人口定住を進めるため、企業誘致や起業を積極的に推進する組織を設置しました。

チームを率いる吉村理事は「企業誘致はなにぶん二葉マークの初心者ですが、誠心誠意萩市への進出をお願いに訪問活動を行います」と意気

■問い合わせ
萩・企業誘致推進チーム
(08388・255・3538)



▲萩・企業誘致推進チームのスタッフ(左から佐伯功副理事、吉村秀之理事、瀨川克巳主任)

あいしま

萩で初の焼酎デビュー

甘く、まろやか



萩市の離島相島のサツマイモを原料にした芋焼酎『あいしま』が、2月に発売され、好評を得ています。萩生まれの焼酎は初

めて。

相島は、玄武岩の土壌が適し、もともとサツマイモの産地。焼酎「あいしま」は、サツマイモを活用し、地場産業の育成につなげるのが目的。島の生産農家やJA、市などが「萩管内農林業活性化協議会」を設立し、昨年9月に収穫した黄金千貫10tで生産。

価格は1500円（容量720ml）、1万本限定。「甘くてまろやかで飲みやすい。飲み

「こちも良い」と好評。市内の酒屋で販売中。

萩阿西宮農指導センターの来原所長は、「今年は作付を30アールから50アールに拡大する予定。味わった観光客がリピーターとなり、観光振興や、島の農業に活気が出れば嬉しい。楽しみは、あいしまにあう料理やつまみが飲み屋に出てくること」と、楽しそうに話されました。

★購入申込は、JAあぶらんど萩共和支所（0838-257735）へ
※2本プレゼント（JA提供）、事務局まではがきで申込み。

藤田傳二郎

偉業を称えて純米吟醸

のぶいしすきり



「宝船」で有名な萩市新川の中村酒造が、萩が生んだ実業家藤田傳二郎翁の偉業を称えて、純米吟醸酒を5月から販売します。その名も「藤田傳二郎」。

酒米の王者、山田錦を100%使用し、純米酒ならではの酒米独特の味わいが息づいている

が、のびのびがすすきりしていると評判。

ラベルのタイトルは翁の直筆から用い、下絵は藤の花。価格は1800円（容量720ml）。

「飲み方は冷やがお勧め。翁ゆかりの岡山市藤田町の藤田神社でお祓いもしました。萩と藤田地区の観光振興につながるとう嬉しいですね」と中村社長。

★購入申込は、中村酒造（0838-222-0137）へ
※2本プレゼント（中村酒造提供）、事務局まではがきで申込み。



△「楽しんで飲んでください」と中村社長

◆藤田傳二郎

萩出身。明治7年藤田組を創立し、世紀の大事業岡山児島湾干拓を手掛ける。大阪経済界の重鎮として活躍し、東洋紡や南海電鉄、毎日新聞、藤田観光などの礎を創った。

とれたて村

東京大山町 ハッピーロード商店街

4月から、東京・板橋区大山町のハッピーロード商店街の全国ふる里ふれあいショップ「とれたて村」で、萩の海産物や農産物などの販売が始まりました。

1日約3万人が利用する商店街の一角にあり、板橋区と交流のある全国10市町村のアテナショップで、地方物産の紹介の場。

萩からは、しそわかめや瀬つきアジ、かまぼこ、夏みかん菓子、ポン酢など13社約80品が店頭を飾っています。「お客様の評判もいいですよ。特に、海産物で香りのあるものが人気がありますね」とハッピーロード事務局長の水野さん。

3月には、プレイベントとして萩を首都圏でPRする「萩の椿まつりin板橋」を開催。萩出身で東京在住の人が集う「東京で萩を愛する会」（会長 鹿野俊二）が主催。鹿野さんは「萩の役に立ちたい、応援したいという思いで計画し、延べ40人が協力。奇兵隊の衣装で商店街を練り

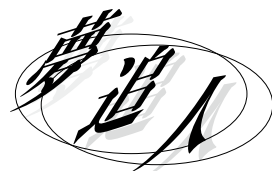


歩いたり、平太郎を焼いて試食したりと、品切れ商品も出るほどの大盛況。協力したメンバーには、萩への強い思いを持つ方がたくさんいる。東京からの発信として、この活力を今後大いに活かしていきたい」と話されました。



★とれたて村

東武東上線大山駅下車徒歩5分（板橋区大山町27-19）
開店時間 午前10時～午後7時、年中無休
03-3958-9040



道の駅「ゆとりパークたまがわ」駅長 田中 民雄さん (55歳)

(萩市下小川在住)

素人集団で切り盛り

道の駅「ゆとりパークたまがわ」の開業は平成9年の10月、今年でもう9年目になります。運営母体となった第三セクター「株式会社たまがわ」の創立が平成9年6月11日、私自身の入社日もこの日です。

高校卒業後は農協(当時は阿北農協)に就職、長年生産指導の分野を担当、小売の知識経験は全く無い状態で、道の駅の直

売店長兼総務課長の職に付きました。46歳の頃だったと思います。

今思い出すと、開業当初は本当に大変でした。全くの素人集団が新設の道の駅を切り盛りしていくわけですから、だいたいの想像がつくでしょう。とにかく毎日が初めてのことばかりで、従業員と力をあわせて一日一日を何とか乗り切ってきたというのが実情です。

自分自身も朝は午前4時に

3年目で黒字計上

魚市場で鮮魚の買い付けに行き直売店に戻って仕入れた魚をさばき開店準備、日中も商品の仕入れに走ったり、お客様の接客をしたり・・・我ながら本当によく働きました。

温泉も含めると道の駅の投資金額は約25億円、当時の田万川町の地域振興・都市交流の拠点として大金を投じて設置されたもの。町会議員の方々からは「赤字は出すな!!」とハッパを掛けられ、それをプレッシャーに頑張ってきました。

ただ、ありがたかったのは、細かい事を行政サイドから言われたことはほとんど無く、今思えば結構好きにやらせてもらうことができました。

そして3年目で黒字計上、その利益の一部を寄付金として町に納めることもできました。

地域の産品と、

地域の人の力

成功の要因は、やはり、この田万川の土地の力だと思います。四季折々の水産物、豊富な農産物、なかでも、梨、葡萄、桃、栗・りんごなど商品価値の高い果物は、ここ田万川ならではの強力な「強み」だと思います。

そして、地域の人の惜しみない協力が得られたことも成功の大きな要因。生産者の立場で、そして時にはお客様の立場で、そして、外に向けては道の駅のクチコミ宣伝担当として、この道の駅に多くの地域の方々が関わってくださっています。

地域の方々への熱い応援を受け、自然体で気持ちもこもった道の駅運営に努めていきたいと思えます。

地域に好循環を産む

基地として

今後については、田万川ならではの特産加工品の開発を積極的に取り組んでいきます。主に地元産の素材を使用したお菓子・清涼飲料などの商品です。ここでも田万川自慢の美味しい果物が強力なアピール力になると思えます。

また、「阿北和牛」という未だ商品化されていない手付かずの資源もあります。地元産の新鮮な魚介を使った水産加工品の開発にも将来的にはチャレンジしていきたいと思えます。

新しい商材によって道の駅の売上が伸びる、それはそのまま生産者の遣り甲斐に繋がります。そして農家・漁家の収入アップに貢献していく。道の駅が中心になって、この

ような好循環が実現できればと夢見ています。(談)

プロフィール

1951年(昭和26年)2月田万川生まれ。益田商業高校を卒業後、阿北農業協同組合に勤務(主に生産指導分野)、97年6月道の駅の運営主体・株式会社たまがわに入社、現在、道の駅「ゆとりパークたまがわ」駅長。趣味はゴルフ・パチンコ。



▲六画屋根のユニークな建物、敷地も広く、ゆったり寛げる道の駅。

道の駅

「ゆとりパークたまがわ」

萩市下田万2849-1 (国道191号沿い)

☎08387-2-1150

休憩所は、午前8時30分～午後7時30分。施設内には、特産直売店、道路情報、観光案内所などがある。



▲道の駅の事務所にて決算書類を作成中の田中駅長。平成17年度は対前年13.6%アップの好業績。

岡田裕氏

県無形文化財に認定

3月20日、陶芸家の岡田裕氏（萩市椿東在住、60歳）が山口県無形文化財に認定されました。萩市内で萩焼の無形文化財（工芸技術）の認定者は、野坂康起氏、波多野善蔵氏に続いて3人目。

岡田氏は、1946年（昭和21年）、岡田窯7代目・仙舟の長男として誕生。慶応大学法学部を卒業後、会社勤めをしますが、「家を離れて、やきものの魅力を認識した」と、



26歳のときに帰郷し、父に師事しました。

その作品は、藁灰を用いた白萩釉に紅紫色の窯変をまとうせた「白釉窯変」で、大型の壺や花器を主体にしています。

昨年、埼玉原所沢市などで開窯200年記念展を行いました。

萩博物館だより

☎0838・25・6447

企画展

晋作と龍馬

一幕末に輝いた二つの青春

6月18日まで

血と砲煙の臭いに満ちた幕末を走り抜けた2人の青年。

龍馬が姉の乙女にあてた書簡や晋作の産着など、2人の子孫が大切に伝えた史料の数々が、没後140年を経て、初めて一堂に会します。



晋作の道中三味線

長州フアイブ

密航留学生と明治維新

7月1日～9月3日

激動の幕末期、命がけで英国へ渡った長州出身の5人の留学生たち。彼らは西洋近代文明に衝撃を受け、新しい時代を切り拓く先駆けとなりました。館藏品を中心に足跡をたどります。

萩再発見ギャラリー

「親子で触れる昭和のくらしⅡ」

6月30日まで

「はしれ機関車！はしれ船！」

7月1日～9月3日

開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 なし

入館料 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

特別展示

華麗なるマイセン磁器

1710年代にドイツ・マイセンで製作された磁器。食器のほかに室内装飾オブジェなど113セット198点を展示。

5月28日まで

萩美術館は和風展示室を、著名な芸術家に1年を通して開放しています。今年も、萩市の陶芸家 兼田昌尚による茶室展示。ろくろを使わず、土を叩いたり押ししたのち、内土を掻きだして形を成す独特な「刳貫（くりぬき）技法」。

浮世絵に見る風雅と風俗
「雅と俗」という言葉は、江戸文化が、「雅の文化」と「俗



の文化」による複雑な展開により成立することを意味します。「雅と俗」という視点から浮世絵の歴史を見直します。

浮世絵展示

「歌川国貞」 5月2日～28日

「月岡芳年 風俗三十二相」

6月10日～7月9日

東洋陶磁展示

「さらぬ筆力―古染付と天啓赤絵―」 5月28日まで

「やきものに象られた動物たち」

6月10日～9月24日

開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 月曜日

※祝日・休日の場合は翌平日

入館料 一般1000円、学生800円

高樹のぶ子さん

「HOKKAI」で

芸術選奨受賞

3月15日、山口県出身の作家高樹のぶ子さん（九州大学特任教授、福岡市在住、59歳）が、「HOKKAI」で2005年度の文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。

高樹さんは、1946年（昭和21年）山口県防府市に生まれました。東京女子大学短期大学部卒業。83年、「光抱く友よ」で第90回芥川賞を受賞、「透光の樹」など恋愛小説の第一人者。



05年10月発行 新潮社 1,680円

受賞の対象となった作品、萩市出身の画家高島北海（1850～1913年）を描いた「HOKKAI」は、フランスのアル・ヌーヴォーに多大な影響を与えた北海の生涯を、史実にフィクションを交えた手法で浮き上がらせた評伝小説です。今年9月、萩市で高樹さんの講演会（萩市民大学教養講座）が開催予定です。

情報アラカルト

関東地区

■萩光塩学院同窓会関東支部

関東地区の光塩学院同窓会。
とき 6月11日(日) 午前11時～

ところ 東京都杉並区高円寺
メルセス会 中野サンプラザ
(03・33311・6146)

■おいでませ山口館4周年フェア

萩の海産物や夏みかん製品が販売されます。
とき 6月5日(月)～9日(金)(予定)

ところ 東京都中央区日本橋2-3-4 おいでませ山口館
(03・3231・1863)

■三輪書展

とき 7月11日(火)～18日(火)

ところ 東京都中央区 日本橋三越本店
(03・3241・3311)

■日本海ふるさと街道味と技展

萩の萩焼などが販売されます。
とき 7月14日(金)～19日(水)

ところ 神奈川県藤沢市南藤沢小田急百貨店藤沢店
(0466・26・6111)

東海地区

■四国・瀬戸内物産展

萩の夏みかん製品と萩焼などが販売されます。
とき 6月7日(水)～12日(月)

ところ 名古屋市中区栄3丁目松坂屋名古屋本店
(052・251・1111)

■**たちばな会関西支部**

関西地区の萩商業高同窓会。
とき 6月4日(日) 午後3時～

ところ 大阪府北区 大阪弥生会館(06・6373・1841)

■**からたち会関西支部**

関西地区の萩工業高同窓会。
とき 6月10日(土) 午後6時30分～

ところ 大阪府北区兎我野町民芸茶屋 豆狸
(06・6311・1415)

■**野坂康起・和左展**

とき 5月17日(水)～22日(月)

ところ 三重県津市 松菱百貨店(059・228・1311)

■**陶芸の森「アーティスト・イン・レジデンス事業」**

陶芸家 三輪和彦が制作した巨大な作品が陶芸の森に展示さ

れます。お披露目の日に、三輪氏が作品について語ります。
とき 5月27日(土) 午後1時30分～

ところ 滋賀県甲賀市信楽町 滋賀県立陶芸の森 創作研修館
(0748・83・0909)

■**納富晋作陶展**

とき 6月7日(水)～13日(火)

ところ 兵庫県姫路市二階町55ヤマトヤシキ姫路店
(0792・23・1221)

■**陶芸の現在、そして未来へ**

陶芸家 三輪和彦の作品が展示されます。
とき 6月10日(土)～8月27日(日)

ところ 兵庫県篠山市今田町上立杭4 兵庫陶芸美術館
(079・597・3961)

中国地区

■広島指月会

広島地区の萩高同窓会。
とき 7月8日(土) 午後5時～

ところ 広島市南区 ホテルグランヴィア広島
(082・262・1111)

山口県関係

■**たちばな会山口支部**

山口地区の萩商高同窓会。
とき 5月19日(金) 午後6時30分～

ところ 山口市湯田温泉 ホテルかめ福
(083・922・7000)

■**日本工芸会山口支部展**

陶芸家 岡田裕・波多野善蔵・野坂康起、止原伸郎らの作品が展示。2会場で行われます。
とき・ところ

5月26日(金)～6月4日(日) 山口市亀山町 山口県立美術館
(083・925・7788)

6月7日(水)～12日(月) 下関市竹崎町 下関大丸
(0832・32・1111)

九州地区

■**下瀬信雄の萩**

写真家 下瀬信雄が萩の風景を撮影した作品が展示されます。
とき 7月6日(木)～25日(火)

ところ 北九州市小倉北区室町1-1-1 朝日新聞西部本社 朝日さんさん広場
(093・563・1375)

萩市関係

■**萩工業からたち会総会**

萩市の萩工業高同窓会。
とき 5月13日(土) 午後6時30分～

ところ 萩工業高校体育館
(0838・22・0034)

■**ワイレッジのコンサート**

・秋吉敏子コンサート
とき 5月14日(日) 午後7時～

ところ 萩市土原 喫茶ワイレッジ
(0838・25・6596)

■**ギャラリー草莽の企画展**

・とりどりVariation
山口県内外の新鋭作家11人による、絵画・陶器などの作品展。
とき 5月7日(日) まで午前11時～午後6時(7日は午後5時まで)

ところ 萩市土原 長屋門珈琲内ギャラリー草莽
(0838・26・2933)

■**ぎやらりー彩陶庵の企画展**

・山口県内の若手作家グループ展(名称未定)
とき 6月10日(土)～18日(日)

ところ 萩市呉服町 ぎやらりー彩陶庵
(0838・25・3110)

■**傳宿天十平の企画展**

・吹きガラス西川孝次展
とき 6月16日(金)～25日(日)

ところ 萩市南古萩町33-5 傳宿天十平
(0838・26・6474)

■**萩焼ギャラリー&ショップ「北國堂」の展示会**

・Relation6
とき 6月16日(金)～25日(日)

ところ 萩市南古萩町33-5 傳宿天十平
(0838・26・6474)

■**萩焼ギャラリー&ショップ「北國堂」の展示会**

・Relation6
とき 6月16日(金)～25日(日)

新規加入会員ご紹介

(2月22日～4月22日) 加入者14人

佐伯雅人さん (埼玉県新座市)
山根修二さん (神奈川県厚木市)
尾尻信治さん (広島県広島市)
山本愛子さん (神奈川県川崎市)
中野正人さん (千葉県市川市)
富田喜代士さん (千葉県千葉市)
陶山圭子さん (大阪府茨木市)
横山傑さん (千葉県千葉市)
沖田吉二郎さん (大阪府交野市)
河村紀一さん (山口県光市)
吉山妙子さん (大阪府豊中市)
井町泰國さん (大阪府大阪市)
永田善次さん (兵庫県神戸市)
平井美和さん (山口県下関市)

陶芸家 中原國輔、庄圭一郎の作品が展示、販売されます。

とき 6月5日(月)まで
ところ 萩市東田町 北國堂
(0838・22・7333)

■萩美術協会展

とき 5月13日(土)～17日(水)
ところ 萩市民館

出版情報

■「MBAリーダーシップ」

大中忠夫著
著者は萩市出身。萩高昭和45年卒。

「現代の組織や社会において、それぞれの持ち場でそれぞれ

がリーダーシップ」を發揮した

に執筆しました。内容は、松陰先生の唱えられた『草莽の志士(リーダーシップ)』を改めて現代に問いかける意図で執筆しています(筆者談)

A5判/275ページ
価格 2940円
発行 ダイヤモンド社

■JAL情報誌「Agora」

3月号
JALカードの最上顧客のための会員誌であり、国際線ファーストクラスの機内誌。

「志士の名残一萩」というタイトルで、夏みかんの光國本店網焼きレストラン見聞、割烹十代、あじろ、萩焼の野坂江月堂などが8ページにわたって紹介されました。

■萩ものがたり特別編
「ますらをたちの旅 長州ファイブ物語」 一坂太郎著

幕末長州藩は、来るべき開国の時代に備え、秘密留学生をイギリスに送り込んだ。井上馨・伊藤博文・井上勝・遠藤謹助・山尾庸三の5人である。のちに「長州ファイブ」と呼ばれる彼らは、さまざまな西洋の文化・文明を明治日本にもたらす。なぜ、若者たちは前へと進んだのか。パイオニアの役を担った男たちの志に焦点を当て、幕末の

激動を描く長編小説。2006年7月発売予定

B6版/約220ページ(予定)
予価 1300円(税込)
※萩ネットワーク会員向け 予約販売のご案内

予価1300円を1100円(送料200円別途)で!

○申込方法
注文冊数、氏名、郵便番号、住所、電話番号を、FAX・官製ハガキ・電子メールで送ってください。電話でも受け付けます。

○代金の決済方法
郵便振替用紙で、書籍到着後1週間以内に支払い(5冊以上購入の場合は前払い)

○お申込先
萩ものがたり事務局
(0838・25・3233)

テレビ情報

■GO!GO!ガリバーくん

津和野・萩編
萩の城下町、萩八景遊覧船、萩焼などを紹介します。

放映予定日 5月10曜日
放映局 テレビ新広島

■ニッポンを釣りたい!
格闘家の須藤元気が、萩沖の日本海でマグロ漁に挑戦します。

放映予定日 6月25日(日) 午後4時5分～5時25分
放映局 全国フジテレビ系

春イベント満載!

萩・夏みかんまつり

夏みかんの花の甘い香りにつまれた公園を散策しませんか。

とき 5月13日(土)、14日(日) 午前10時～午後4時
ところ 萩市平安古町 かんきつ公園・旧田中別邸

内容 夏みかん商品・特産品の展示・販売、郷土芸能披露、抹茶席など

※期間中、萩八景遊覧船が臨時停泊します。

問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)

浜崎伝建おたから博物館

浜崎伝統的建造物群保存地区で、江戸や明治の伝統的建造物や家々の「おたから」を見てみませんか。

とき 5月21日(日) 午前9時～午後4時
ところ 萩市浜崎本町筋周辺、魚市場、御船倉、住吉神社梅屋七兵衛旧宅ほか

内容 おたから展示(吉田松陰の書、松本窯の萩焼、有田焼大花器、石油ランプ扇風機など)、伝建物見学ミニツアー、萩沖クルージング、お食事処等

問い合わせ 萩市まちなみ対策課
(0838・25・3238)

萩の和船大競漕

玉江浦地区に受け継がれてきた「おしくらごう」など、和船競漕を開催します。

とき 6月4日(日) 午前10時～午後1時30分
ところ 玉江浦橋本川流域

問い合わせ 萩市水産課
(0838・25・2230)

萩・菊ヶ浜海開き

当日は、スイムとランによりタイムを競う「アイアンマンレース」も開催。

とき 6月25日(日) 問い合わせ 萩市観光課
(0838・25・3139)

G・W中のイベント

●萩焼まつり
▽5月1日(月)～5日(金) 萩市椿 市民体育館

●萩・大茶会
▽5月3日(水)～4日(木) 萩市堀内 萩城跡・指月公園

●萩往還まつり「技・明木展」
▽5月3日(水)～4日(木) 萩市明木市 乳母の茶屋周辺

●須佐焼ふれあいまつり
▽5月3日(水)～4日(木) J.R須佐駅前



日本各地の「萩」②

井上馨潜伏の家

(大分県別府市)

一坂太郎 (萩市・特別学芸員)

長州(萩)藩出身で維新の元勳となつた井上馨(聞多)は、周防国吉敷郡湯田字高田村(現在の山口市湯田)の生まれである。十七歳で兄と共に萩城下に出て来て、自炊をしながら藩校明倫館に通つた。十九歳の時、江向に住む藩士志道慎平の養子となり「志道聞多」と名乗る。

養父慎平は神道癖があり、養母は熱心な観音信者だった。若き日の井上は、そのどちらにもつき合わされるのが日課で、養家において窮屈な思いを噛み締めていたという。時文三年(一八六三)五月、井上は五人の秘密留学生(長州フアイブ)の一人に選ばれ、ひそかにイギリス・ロンドンに渡航する。

その際、養家に迷惑がかかるのを恐れ、離縁して井上姓に復した。井上は伊藤俊輔(博文)とともに一年足らずで留学を切り上げて帰国。以後は藩きつての開明派として活躍する。だが、時代の先端を歩くだけに、つねに危険が付きまといつた。慶応元年(一八六五)四月、高杉晋作らと馬関開港論を唱えた井上は、反対派から生命を狙われ、九州別府に逃れる。「春花輔」と変名した井上はひと月ほどの間、若松屋という宿の二階に潜伏し、灘亀という侠客の世話になつた。賭場で負けて無一文になり、別府港の工事場で働くこともあつたという。時は流れて明治四十四年(一九一三)五月二十九日、井上は別府を再訪する。すでに、恩人である若松屋夫婦も灘亀も亡くなつていた。しかし若松屋の娘で、井上潜伏当時十二歳だったハツが



◁井上馨(聞多)



△若松屋(市公会堂敷地)

▽若松屋の隣に立つ石碑

存命していた。この時になりハツは初めて四十七年前の亡命者が、元勳井上馨と同一人物であると知り驚く。大分県知事や別府町長などの挨拶を受けた井上は、やがて駆けつけたハツや関係者と昔話に花を咲かせた。それから井上は灘亀の位牌を拝んだり、かつて潜んでいた若松屋の階上六畳の二室を訪ねて、感慨にひたる。さらに三十一日夜、知事や名士を不老泉の三階楼上に招き、大宴会を開いた。こうして井上の別府再訪は、盛大な歓迎ムードの中で終わる。井上ゆかりの若松屋二階建は昭和八年(一九三三)、別府市に寄贈され、市公会堂敷地に移築されて現存する。その隣に建つ、別府市長平山茂八郎の撰文を刻む石碑の題字「千辛万苦之場」は、井上の筆跡。文字どおり白刃の下をくぐり抜け、新時代の一翼を担った井上の感慨が籠もる。

萩発 旬の味覚便り



岩やばで (スズメダイ)
礁帯に群れる10cm程度の小魚。磯釣りなどで餌を掠め取る邪魔者として嫌われ、見た目も良くないため、持ち帰る人は稀。でも、これが、実は意外と美味。かつては漁師さんが自家で賞味する程度で、魚市場や店頭に出ることはありませんでしたが、近年、スズメダイの美味しさに気づく人が増えて、夏場は、魚屋に並ぶようになりました。萩の居酒屋などでも、「やはでの背ごし」「やはで塩焼き」などのメニューで、本日のお勧め黒板に登場します。小さな魚のわりには驚くほど脂の乗りが良く、味が濃いのが特徴です。全国的に分布するお魚ですが、やはり一般に消費されることは少なく、漁師の家庭料理素材に留まっているようです。やはり本場に美味しい魚は、漁師さんがこっそり食べているのですね。



産地の魚屋で10匹程度パックにして販売されています。良いものは、きれいな茶褐色で、ウロコがあまりはがれ落ちてないもの。大きめなものを選んで、だぼが、脂の乗りもよく、調理も簡単です。旬は6月～8月。